

## 第6学年 社会科学学習指導案

1 小単元名 「浸水から私たちの街を守る政治の働き～山王雨水調整池～」

### 2 指導観

○ 子どもの研究から見えたもの

これまで子どもたちは、人物や文化に視点をあてて、その時代に起こった出来事や政治・思想などを調べながら歴史学習を行ってきた。子どもたちは、学習問題の答えを出すために意欲的に調べ学習に取り組んでいた。また、調べた内容を分かりやすく表現物にまとめたり、グループで調べた内容を発表して相手に伝えたりする活動が好きである。しかし、調べた内容を伝えるだけにとどまり、調べた内容や考えの相違をもとに交流活動をするなど、自分の考え方や見方を広げたり確かにしたりするには至らないことが多い。

○ 教材の価値、意義

博多駅周辺では、1999年6月29日と2003年7月19日に記録的な豪雨のため、甚大な浸水被害が発生した。このため福岡市では、博多駅周辺を三度浸水させないように、「博多駅地区緊急浸水対策事業・雨水整備レインボープラン博多」を策定し、2004年度から取り組んでいる。その事業の一つとして、山王公園に雨水の貯留を目的とした山王雨水調整池を設置した。山王公園は、歓迎遠足で毎年訪れる場所なので、子どもたちはとても親しみをもっている。しかし、その公園の地下に、浸水から福岡市を守るための山王雨水調整池があることは、ほとんどの子どもが知らない。

身近にあるこれらの施設や福岡市下水道局で働く人々の思いを調べることで、政治が、浸水からわたしたちの街を守るために大切なはたらきをしていることを理解することができる価値をもっていると考える。

○ 指導・支援の方法

(つかむ段階)

まず、福岡市の公共施設が何のために建設されたのか予想し、市民の願いから建設されていることを知る。この際、一つ一つの公共施設がどのくらいの期間で完成したのかも伝える。次に、毎年訪れる山王公園の地下にも公共施設があることを知らせ、見学に行く。ここで、山王雨水調整池の大きさや施設内容に興味をもたせ、学習問題「なぜ山王雨水調整池は3年という早い期間でできたのだろう」をつくる。山王雨水調整池が完成するまでの年表から、学習問題の答えの予想を立てさせる。その次に、予想の交流をし、「住民の働き」と「市職員の働き」に2つの視点をつくり、調べる見通しをもたせる。

(さぐる段階)

○○さんや△△さんにインタビューをしたり、資料を読み取ったりして事実の追究を行う。その際、子ども用に加工した平易な資料を与える。また、子どもたちが積極的に情報交換をできるように、同じ視点の友だちと交流させる。個人の情報を共有化させる。

(まとめる段階)

学習問題の答えを発表し、交流する中で自分の考えを見直させる。まず、代表児童に学習問題の答えを発表させる。次に、違う視点への質問や意見を言う交流活動を行う。ここで、子どもたちには2つの考えのつながりに気づかせていく。そのために、2つの考えの関係性に気づかせるための板書の工夫をしたり、発問をしたりする。最後に、学習問題に対する自分なりの考えをまとめ、学習問題の答えを出させる。

### 3 単元構成図



### 4 目標

- 公共施設の建設や政治のはたらきに関心をもち、山王雨水調整池が建設されるまでの経過を意欲的に調べている。(関心・意欲・態度)
- 山王雨水調整池の建設について、市民の願いと市や国、県の政治のはたらきのかかわりを具体的に考えることができる。(社会的な思考・判断)
- 博多駅地区浸水対策室で働く人への取材や山王雨水調整池の見学などで収集した資料を活用して、わたしたちの願いと政治のはたらきの関係を、文章や図などを用いて表現することができる。(表現・処理)
- 山王雨水調整池の建設は、わたしたちの生活の安定と向上を図ろうとする政治のはたらきによるものであることを理解することができる。(知識・理解)



	めていったのだろう」…市職員の働き	とができる。(思考・判断)	
さ ぐ る	<p>3 自分の視点に沿って調べ、学習問題に対する自分の考えをまとめる。</p> <p>(1) 実際に山王雨水調整池に見学に行き、現場を見たり、〇〇さんや△△さんにインタビューしたりして情報を集める。</p> <p>A「住民の働き」(〇〇さんを中心に)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浸水被害の聞き取り調査</li> <li>・建設反対住民の説得 など</li> </ul> <p>B「市職員の働き」(△△さんを中心に)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工事計画の作成 (レインボープラン博多)</li> <li>・市の予算の確保</li> <li>・国への援助要請(補助金) など</li> </ul> <p>(2) 収集した資料を活用して、学習問題の答えを表現物にまとめる。</p>	<p>○子どもに資料を提供する際は、子ども用に加工した平易な資料を与える。</p> <p>○子どもたちが積極的に情報交換ができるように、同じ視点の友だちと交流させる。個人の情報を共有化させる。</p> <p>※調べたことと学習問題の結びつきを考えて、自分なりの考えをもつことができる。(思考・判断)</p>	6 ④
ま と め る	<p>4 学習問題の答えを発表し、交流する中で自分の考えを見直す。</p> <p>(1) 調べたことをもとに、学習問題の答えについて交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>【住民の働きの代表児童】</b></p> <p>3年間で完成できたのは、〇〇さんたちが被害状況を調査したり、住民会議を開いたりして、20日間で山王雨水調整地の要請書を市に提出したからである。</p> </div> <p>(2) 交流をもとに、自分の考えを見直し、学習問題の答えを出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>【市職員の働きの代表児童】</b></p> <p>市職員は、要請書の提出前から被害調査をしたり、予算の確保をしたりしていた。また仕事を役割分担して早急に行動していた。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〇〇さんたちは二度と浸水被害が起こらないように、要請書を作成し市に提出した。その願いを叶えるために△△さんたちは役割分担をして計画案を作成したり、建設費用を集めたりして早急に行動した。二度と浸水被害を受けないように、〇〇さんや△△さんたちの働きが深くつながり合っていたので山王雨水調整地は3年という早い期間でできた。</p> </div> <p>(3) わたしたちの生活と政治の働きのかかりについて話し合い、政治の働きについてまとめる。</p>	<p>○代表児を前時までに選び、発表の準備をさせておく。また、聞き手に質問を考えさせるために、あらかじめ代表児童の考えを知らせておく。</p>	2 ① 本 時
			①

7 本時目標

- 交流活動を通して、自分の考えを見直し、私たちの願いと政治の働きの関係をより確かなものにすることができる。
- 山王雨水調整池の建設に携わる人々の工夫や努力をとらえることができる。

8 本時指導に当たって

これまで子どもたちは、「なぜ山王雨水調整池が3年間で完成できたのだろう」という学習問題の答えを「住民の働き」と「市職員の働き」という2つの視点から追究してきた。本時では、この2つの視点の交流を通して、それぞれの考えを確かめるとともに、それぞれの考えをつなぐことでより深い考えへと変容させていくことをねらいとしている。

そこで、本時の指導に当たっては、以下の手だてを取りながら学習を進めていく。

手だて(1)事前に子どもの考えを把握・類型化して構成図にまとめる。

全体交流に臨むに当たって、前時までの子どもたちの考えをノートや「今日の学習で」をもとに把握・類型化し、子どもたちの考えや板書をまとめた構成図を作成する。構成図を作成することで、全体交流の際、子どもたちの交流が繋がっていくように、子どもたちの論点がずれていかないように、教師の意図的指名が可能になる。また、手だて(2)につながる、2つの視点のつながりに気づかせるための意図的指名が可能になる。

手だて(2)「住民の働き」と「市職員の働き」のつながりに気づく板書と発問

お互いの考えをつなぐために、2つの考えの共通点(出発点)が強調されるように板書の工夫を行う。例えば、子どもの発表で「住民の願いから要請書を提出した」(住民の働き)と「住民の願いから市職員が地下空間浸水対策案を提案した」(市職員の働き)では、どちらも出発点は「住民の願い」である。この場合、2つの考えを線で結ぶ。

また、2つの視点のつながりに気づき始めた時点で、「黒板の住民の働きと市職員の働きから気がつくことはありませんか。」と発問する。この発問をすることで、今一度、子どもたちを板書に立ち返らせ、2つのつながりを引き出させるようにする。

9 本時の展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点(○)
1 本時のめあてを確認する。	
山王雨水調整池について調べたことを話し合い、学習問題の答えを出そう。	
2 代表児童の考えをもとに、学習問題の答えを交流する。	○代表児童には前もって予想される質問等を伝えておく。

(1) 代表児童の考えを聞く。

【住民の働きの代表児童】

3年間で完成できたのは、〇〇さんたちが被害状況を調査したり、住民会議を開いたりして、20日間で山王雨水調整地の要請書を市に提出したからである。

【市職員の働きの代表児童】

市職員は、要請書の提出前から被害調査をしたり、予算の確保をしたりしていた。また仕事を役割分担して早急に行動していた。

(2) 代表児童の考えをもとに交流し、2つの視点の関係性に気づく。

【住民の働き】

要請書の提出

【市職員の働き】

工事計画の提案  
(地下空間浸水対策案)

住民への被害調査

予算の確保  
など

二つには関係性がありそうぞ。

どちらか一つだけの働きでは、山王雨水調整地はできなかった。両方が深く結びあっていたんだ。



○交流では違う視点の友だちの根拠を聞き出すようにする。

○2つの視点の関係性に気づかせるために、理由が同じキーワードや順序性のあるキーワードを線でつなぐ。

【集約に向けての発問】

黒板の住民の働きと市職員の働きから気がつくことはありますか。

3 学習問題に対する自分なりの考えをまとめ、学習問題の答えを出す。

〇〇さんたち(住民)は二度と浸水被害が起こらないように、要請書を作成し市に提出した。その願いを叶えるために△△さんたち(市職員)は役割分担をして計画案を作成したり、建設費用を集めたりして早急に行動した。博多駅周辺が二度と浸水被害を受けないように、〇〇さんや△△さんたちの働きが深くつながり合っていたので山王雨水調整地は3年という早い期間でできた。

4 「今日の学習で」を書き、発表する。

はじめは〇〇さんたちが住民の命を守るために、一生懸命、要請書を作成して市に提出したから早くできたと思っていました。しかし、その住民の願いを叶えるために、△△さんたちが急いで工事計画を立てたり、すぐ費用を確保したりしてくれたこともわかりました。住民の願いと、それを実現させようという市職員の働きが深く結びついたので山王雨水調整地は3年間で完成したことがわかりました。